令和２年度多忙化解消アクションプラン

（小学校における働き方改革推進プロジェクト校用）

加配教員(働き方プロジェクト 22H)と 学習指導員配置による多忙化解消にむけての取組

多治見市立北栄小学校

1. 目標

加配教員（働き方プロジェクト 22H）を配置することで、

1　担任と学級の児童とふれあえる時間を確保する。（学級経営・教育相談の時間の確保）

2　担任が子どもの家庭学習の内容をチェックする時間を確保し、個々の学習支援を行う。

3　担任の授業準備の時間を確保する。

（授業準備時間の確保＝よりわかりやすい授業の創造と準備をする時間）

学習指導員を配置することで

4　障がいのある児童生徒の生活や学習の支援に寄り添い心の安定を図り、児童間のトラブルを防ぐ。よって担任の生徒指導対応時間の軽減を図る。

2. 加配教員に係る実施状況

加配措置状況		実施教科	実施状況								
非常勤	週時間		４年生			５年生			６年生		
			実施	学級	時間	実施	学級	時間	実施	学級	時間
1	22	理科	○	2	6	○	3	9	○	2	6

3. 実践の内容

【加配教員（働き方プロジェクト 22H）の配置】

・ 4.5.6 年生の理科の授業を専科として担当した。内訳は、4 年生：6 時間、5 年生：9 時間、6 年生：6 時間＋準備 1 時間＝22 時間（数字は、週時間数）と位置付けた。その結果、それぞれの担任の 1 週間あたり 3 時間の空き時間を設けることができた。

【外部人材の配置】

・ 多治見市から各学校に配属された「キキョウスタッフ（障がいのある児童生徒の生活や学習の支援を、学校職員と連携する。県費の学習指導員等配置事業も活用）」を右の表のように毎週計画を立て、各クラスに割り当てた。休み時間にも児童につき、児童間のトラブルを防ぎ、担任の生徒指導事案の軽減を図った。

キキョウスタッフ配置表

		名	1	2	15分休み	3	
8（金）		[redacted]	5の3	4の2算数	5の3	4の1算数	5
			1年	1年	1年	1年	1
			3の2	3の2	3の2	3の2	3
		個別指導		2の2算数		6の1算数	
12（火）		[redacted]	4の1算数	4の2算数	5の2	5の2外国語	6の1
			1年	1年	1年	1年	1
			2の2算数	3の2	3の2	3の2	3
		個別指導	3の2算数				
13（水）		[redacted]	5の3算数	6の2算数	5の1	5の2算数	4の1
			1の1	1の1	1年	1年	1
			3の2	3の2	3の2	3の2	3
		個別指導	校長先生		4の2		
14		[redacted]	2の1算数	6の2算数	6の1	5の3算数	5の
			1年	1年	1年	1年	1

【早めの退校を意識する職場環境作り】

・「水曜日」「8 のつく日」を早く帰る日と位置づけ、その他の日も 19 時には帰宅するように職場環境作りに努めた。

【打ち合わせの回数･時間を減らす取組、会議内容の見直し】

（月あたり一人あたり1時間削減の見込み）

・ サーバーに「打ち合わせフォルダ」を作り、職員間の情報はいつでも共有できるようにした。伝達事項が印刷された紙を探す手間を省いた。簡単な伝達事項は、職員室のモニター画面に映し、歩きながら見られるようにし時間の節約を図った。緊急･時間外の情報は、メール配信し、情報が共有できるようにした。その結果、月あたり一人あたり1時間の削減見込みとしている。

・ 研究推進では、「校内研究の進め方」を改善し、文書提案等で職員に周知する方法をとり、会議の回数を見直した。

4. 評価結果

令和２年度多忙化解消アクションプラン

（小学校における働き方改革推進プロジェクト校用）

【加配教員（働き方プロジェクト 22H）の配置】

・ 下の表のように加配教員を配置することで空き時間が確保され、時間外勤務時間も昨年度より大きく減らすことができた。（平均空き時間数は、加配教員以外の活用を含む）

	高学年担任の平均空き時間数			教職員の月当たりの平均時間外勤務時間（9 月～11 月）			
	5 年生	6 年生	平均	９月	１０月	１１月	9～11 月平均
R1	4.5	4.5	4.5	46 時間 16 分	55 時間 38 分	46 時間 56 分	49 時間 37 分
R2	5.0	5.5	5.3	36 時間 29 分	37 時間 07 分	31 時間 58 分	35 時間 11 分

【外部人材の配置（キキョウスタッフ）】

・ 支援が必要な児童に「授業」「休み時間」つくことによって、生徒指導事案を未然に防ぐことができた。以前は、放課後に保護者から電話がかかりトラブルの対応に追われ、帰宅時間が遅くなったが今年度は少なくなった。（上記の時間外勤務時間減少を参照）

5. 成果と課題

（１）成果

◎ 加配教員（働き方プロジェクト 22H）をいただいているので、4.5.6 年の理科を担当した。（合計 22 時間：授業 21 時間＋準備 1 時間）4.5.6 年の担任がその恩恵を受け、目標の 1、2、3 の達成に大きく貢献した。

○ 担任が、加配教員が行っている授業時間を使って（担任の空き時間）、相談室登校をしていた児童と教育相談を行うことにより再びクラスに入り授業を受けられるようになった。

○ 担任の空きの時間を家庭学習の「音読カード」や「漢字ドリル」、「計算ドリル」の見届けをする時間として確保することができ、一人一人の学力の定着につながった。

○ 運動会がコロナ禍で行うことが出来ない中、加配教員が行っている授業時間を使って、運動会に代わる「体育参観」の準備を進めた。『競技内容』を考えたり、『集団行動』内容を考えたり、さらに「体育参観」の質がよくなるよう『競技内容』を練り上げることができた。

○「外部人材の配置（キキョウスタッフ）」各クラスの支援が必要な児童につくことにより児童間のトラブルが減少した。加えて放課後の保護者からの電話回数も減少した。

○「早く帰れる日は、早く帰ろう」を合い言葉に、多くの職員は 18 時には帰るようになってきた。遅い職員も 19 時には帰る気運が高まってきた。

○「打ち合わせ」はモニター画面を見ながら進め、会議の時間を削減することができた。打ち合わせファイルに写真を貼り付ける工夫は、現物を見ながら確認ができ、さらに時間削減につながった。

（２）課題

● 15 分休み、昼休みに子どもとふれあう時間を確保することを目標としていたが、新型コロナウイルス感染予防対策への対応や生徒指導事案、教育相談への対応等で、子どもたちと一緒に遊ぶ時間の確保は、なかなかできなかった。

●水曜日と８のつく日は「早く帰る日」と設定したが、コロナウイルス感染防止対策にむけた取組等が入り、固定することはできなかった。（別日に早く帰るよう指示）

●外国籍児童が増え、学校報や学年通信の翻訳手配・通訳派遣手配をする準備が増え、生徒指導事案以外で時間がかかることが増えた。

●支援が必要な児童が多く、今年度 65 名、来年度 72 名が児童支援委員会の会議で候補としてあがっている。キキョウスタッフ 4 人では、まだまだ少ないのが現状である。